

科目名 (科目番号)	理学療法 評価学演習 (064262)	教員名	鈴木康文 永井 智 山本竜也	学科等	理学療法	必修	履修年次	2
				曜日・時限等	時間割参照	単位数	1	
				オフィスアワー		火5	A305研究室(鈴木)	
授業概要	理学療法を展開していく過程でまず必要となる理学療法評価について学ぶ。 理学療法の対象となる疾患・症状のほぼすべてに共通して行われる基本的な評価法を理解し、それらの検査・測定技術(主として形態測定、感覚検査、反射検査、関節可動域測定、徒手筋力測定が中心)を習得する。							
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること							
授業計画	回	授業項目	学習内容・到達目標					
	1	理学療法評価学総論	到達目標:理学療法評価の意義 目的を理解する。臨床的思考過程を理解する。 学習内容:理学療法評価の意義 目的 臨床的思考過程について。					
	2	一般的評価事項	到達目標:医療面接の意義を理解する。身体所見について理解し、測定や観察ができる。 学習内容:一般的評価事項(病歴や現症のとり方を含む)について。					
	3	感覚検査	到達目標:感覚検査の意義と目的を理解し、感覚検査が実施できる。 学習内容:表在感覚、深部感覚、複合感覚の感覚検査を行なう。					
	4	反射検査	到達目標:反射検査の意義と目的を理解し、反射検査が実施できる。 学習内容:深部反射、表在反射、病的反射の反射検査を行なう。					
	5	関節可動域測定・形態測定	到達目標:各測定に必要な指標が触診でき、基本的な技術レベルで実施できる。 学習内容:周径、肢長、関節可動域の測定を行う。					
	6	徒手筋力検査	到達目標:徒手筋力検査の手順、代償運動を理解し、徒手筋力検査が実施できる。 学習内容:手指、脳神経支配筋の徒手筋力検査を行う。					
	7	徒手筋力検査	到達目標:徒手筋力検査の手順、代償運動を理解し、徒手筋力検査が実施できる。 学習内容:上肢・下肢の徒手筋力検査を行なう。					
	8	徒手筋力検査	到達目標:徒手筋力検査の手順、代償運動を理解し、徒手筋力検査が実施できる。 学習内容:上肢・下肢の徒手筋力検査を行なう。					
	9	徒手筋力検査	到達目標:徒手筋力検査の手順、代償運動を理解し、徒手筋力検査が実施できる。 学習内容:頭頸部・体幹の徒手筋力検査を行なう。					
	10	理学療法評価で用いられる検査手技の確認	形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査、知覚検査、反射検査の実施(プレトライアル)					
	11	理学療法評価で用いられる検査手技の確認	形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査、知覚検査、反射検査の実施(プレトライアル)					
	12	理学療法評価で用いられる検査手技の確認	到達目標:それぞれの検査を基本的な技術レベルで実施できる。 学習内容:形態計測、関節可動域測定、反射検査の実施方法の確認。					
	13	理学療法評価で用いられる検査手技の確認	到達目標:それぞれの検査を基本的な技術レベルで実施できる。 学習内容:形態計測、関節可動域測定、反射検査の実施方法の確認。					
	14	理学療法評価で用いられる検査手技の確認	到達目標:それぞれの検査を基本的な技術レベルで実施できる。 学習内容:徒手筋力検査、知覚検査の実施方法の確認。					
	15	理学療法評価で用いられる検査手技の確認	到達目標:それぞれの検査を基本的な技術レベルで実施できる。 学習内容:徒手筋力検査、知覚検査の実施方法の確認。					
成績評価の方法・基準	記述式試験+実技試験(100%)の成績により評価を行なう。							
教科書	理学療法評価学 改訂第6版			松澤正、江口勝彦		金原出版		
参考図書								
教員からのメッセージ	実習に相応しい服装で参加すること。授業だけでは技術の習得は難しいので、授業時間以外でも練習をしておくこと。							